

市議団ニュース

NO. 1742
15.02.08
日本共産党根室市議団
宝林町4-203
電話23-6023
FAX24-1684

暴風雪が続く今冬の根室地方

この1月22日・23日、1月31日・2月1日・2日と連続して根室市を始め、根室地方は暴風雪に襲われました。この低気圧はいわゆる「南岸低気圧」と言われるもので、例年は春先に多く発生することが多いのですが、今冬は真冬の1月、2月に既に毎週のように襲来し地球環境・気象状況の異常さを示すものとなっています。この結果、市民生活への影響も様々出ています。



道道半島線・2月2日午後3時頃、引臼バス停付近（写真根室市提供）

羅臼で最大の積雪に

根室管内羅臼町では、報道されているように、観測史上最大の積雪量を記録、2日の24時間降雪量が93cmとなり、道の要請で陸上自衛隊が出動する事態となっています。2日正午には179cmの積雪となっています。

根室市も厚床が約60cm、別海町でも同様の数値を記録している様です。今度の低気圧で国道44号線が31日の午後3時から翌1日の午前7時まで厚床、穂香が交通止めとなったのを始め、同日の午後7時から

翌朝の7時まで浜中町茶内厚床約24kmが不通となりました。さらに、道道35号線（根室半島線）は、至る所で不通となり、裏路線の北浜町 瑠瑠瑠3丁目の約40kmは延3日間通行止めが続きました。根室半島線の歯舞 瑠瑠瑠では、2日に強風が吹き荒れ朝方から夕方の3時30分頃まで視界不良のため通行止めも見られるなど市民生活にも大きな影響がありました。

公共交通も影響が

影響は各公共交通にも及んでいます。バス路線は2日納沙布線が通行止めにより運休、1日は都市間バス（根室 釧路、根室 札幌）、31日は中標津空港線、中標津線（中標津厚床）、市内線は午後1時以降、花咲線、厚床線は昼の便から運休しました。JRが31日から2日全面運休。もちろん空の便も31日から2日全便が欠航となりました。

学校は、市内小中学校、根室高校、根室西高校とも2日は臨休となり、さらに停電が西浜町3、8、9、10丁目、東和田、穂香の約600戸で1日は、2時間以上続き、豊里、牧之内の一部は朝7時30分過ぎから昼の12時過ぎまでとなりました。

温暖化や異常気象？

夏の猛暑と豪雨、今冬には四国、九州でも降雪があり、昨年末の爆弾的圧による緑町、弥生町を襲った高潮被害等々、地球環境が激変した状況が続いています。こうした状況は、地球全体に及び、北半球、南半球のいずれでも異常な気象状況が現れています。

今冬の「南岸低気圧」の連続的な発生は明らかに温暖化が進行する中で「異常気象」現象の一つではないと思われま

す。暴風雪が長く続いたのは、今回の低気圧が、北海道の東海上（特に根室半島より）を北に進みましたが、その進路を北に張り出し

た高気圧が進路をふさぎ同じ位置に長く停滞せざるを得ない気象状況となり、羅臼町に大雪・暴風雪、根室市には強風・暴風雪をもたらす結果となっています。

なぜそんな気圧配置になっているのか？ それは偏西風の大蛇行とされ、これが起きる原因の一つがエルニーニョ現象（ペルー沖の冷水域が衰退し温度が上がる状態）とされています。

穏やかな気候をもたらすのは、地球の中緯度を西から東へ鉢巻の様に回る偏西風が、ペルー沖の冷水域によって、大きく南北に蛇行しないようになっていいるのが、ペルー沖の海水温が高いと大きく蛇行した現象が起きるとされています。この蛇行が大きいと冬も北海道沖の北に「プロッキング高気圧」が発生しやすく、今回の低気圧の様に根室沖で停滞し、何日も暴風雪が続くとされています。

温暖化とエルニーニョ現象は、関係しないという学説もありますが、最近の北大等の研究で温暖化が大きくなるとエルニーニョ現象も大きくなるとの発表がされています。